

令和2年度 北海道羽幌高等学校 自己評価票（教職員） 前期集計

9月14日(月)実施 回答数19名

A:あてはまる=4点 B:だいたいあてはまる=3点 C:あまりあてはまらない=2点 D:あてはまらない=1点

領域	評価の観点		達成状況		取組の適切さ		改善に向けた取組	
			平均	前年平均	平均	前年平均		
組織運営	1	本校の学校教育目標や教育実践は、生徒の実態や保護者・地域住民の願いを踏まえたものとなっている。	3.42	3.35	3.37	3.35	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は感染症の影響もあり思うような実践が出来ていないところもある。柔軟な工夫が必要だと考えている。 前年度の学校評価等を振り返るため反省会議の充実を図る。 PDCAが上手く使われていない。中間反省⇒年度末反省⇒次年度につなげたい。 コロナ禍の中での学校外と関わるのが困難であった。 	
	2	育成を目指す資質・能力を踏まえ、学校内外の教育資源を活用した教育活動が実践されている。	3.26	3.30	3.32	3.40		
	3	前年度の学校評価や反省事項に基づいて、教育活動の改善を適切に行っている。	3.11	3.30	3.16	3.25		
	学校運営 教職員の資質向上 と 服務規律	4	信頼される学校づくりに向けて、交通法規等の法令遵守や体罰防止など服務規律の保持及び危機管理に努めている。	3.63	3.65	3.53	3.60	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な働き方を考えて実践しようと思うが、なかなか徹底までいかない。更なる工夫が求められる。 業務の集中や偏りが見られると感じます。経験のあるなしに関わらず組織としての協力体制を再度確認すべきかと思えます。 研修の機会自体が少ないので、来年度こそはしっかり出席するつもりです。 業務の精選は進んでいるが、仕事の絶対量や一人あたりの仕事量に際が大きいと感じるためできるだけならず。 見通しを持った業務の進め方を今一度考える。 業務の偏りが働き方改革を進められずにいるところもある。外部からの依頼はできる限り受けたいところではあるが、精選も必要である。 法令遵守や体罰防止、服務規律を守れていない(一部)。生徒の体調管理などを含めた学校全体の危機管理が乏しい。 研修への参加を積極的に考えていく。 在校等時間が長い教員が多く、なかなか勤務時間の縮減が図られていない。
		5	研修を積極的に推進し、実践的指導力の向上に励み、資質向上に努めている。	2.95	3.30	3.05	3.40	
		6	効率的な業務の精選・遂行とそのスケジュール管理に努めるなどして、「働き方改革」を進めている。	2.63	2.90	2.79	3.00	
総務・教務	7	学習シラバスを活用した授業展開や観点別評価により学習評価を適切に行い、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図っている。	3.11	3.05	3.05	3.20	<ul style="list-style-type: none"> 限られた内容ではあるが学校全体として工夫した教育活動が出来ていると感じる。感染症対策も踏まえ更なる実践に努めたい。 コロナで計画通りいかないことが多かった。 教科横断を具体化できる組織作り。コロナの終息。 地域的な特性なのか、生徒への働きかけを行ってもなぜか家庭学習の習慣がつかない子もいる状況です。家庭の協力が必要かと思えます。 1学年は特に粘り強い指導が必要と痛感しています。引き続き授業改善に努めます。11について、今年限りは仕方ないと思えます。 コロナの影響が大きい。 部活動・探究活動や行事等の取組をHPを通して活発に発信する。 コロナの影響で外部との接触が限定される中、「対話的で深い学び」や外部との連携など、困難なことが少なくない。この状況がまだ続く以上、出来る範囲での工夫が必要である。 学習指導要領に基づいた学習シラバスの作成と評価を行う必要がある。また、内規との関係性や見直しも必要。 3展開での授業参観、改善の策を講じる必要がある。 シラバス作成がなされていない。授業改善に向けた取組をルーティンの中に取り組みむことが難しい状況があるか(多忙であるため)。 HPやメール配信はリアルタイム処理が十分できている。HP更新は担当者の声かけにより作業が進んでいる。 PTAとの連携は今年度コロナ禍により実施できない状態にある。 	
	8	知識・技能の習得に加え、教科横断的に思考力や判断力、表現力などの活用学力を育む授業を実践している。	3.16	3.20	3.16	3.20		
	9	自主的・意欲的に学習(特に家庭学習)に取り組む習慣を身に付けさせる工夫を行っている。	3.16	3.10	3.26	3.20		
	10	HPやメール配信、各種通信等で本校の教育活動を外部に積極的に発信している。	3.68	3.75	3.68	3.60		
	11	学校行事の公開や地域の行事等への参加を通して積極的に地域や関係機関・他校種等との連携に取り組んでいる。	3.11	3.60	3.42	3.60		
	12	学校とPTAの連携が十分に図られ、PTA活動も充実した取組になっている。	3.32	3.35	3.26	3.35		
教育活動 生徒指導	13	いじめ防止に向けた校内体制が確立されており、日常から生徒の状況把握及び未然防止・早期発見に努めている。	3.47	3.50	3.42	3.45	<ul style="list-style-type: none"> いじめの定義が幅広く難しい部分もあるが生徒第一に考え全職員で毅然と取り組んでいる。 後期に向けてコロナ禍での状況を見つつ、その中で何が出来るかを考える。 リモートスクールの時は素晴らしかったです。 コロナの影響で実施が難しいか。 学年間・教科間の連携を更に強め状況を適切に把握する。 生徒から発信されている声をもっと聞くべきである。しっかりと生徒を見て様々な活動を行ってほしい。 改善ではないが、継続的な取組と反省を行い、生徒の変化や行動で対応していくことが必要。 見えないいじめにどう対処するか対策の必要性を切に感じる。 各種講演会は適切に実施されている。 全校生徒が局員として地域や学校に対しボランティア精神を育むことを充実させる工夫が必要か。 	
	14	学校行事や部活動等を通して生徒が自ら考え仲間と協働する力を育てている。	3.37	3.35	3.58	3.40		
	15	各教科の授業や各種教室・講演会等を通して命や健康・安全の大切さを指導している。	3.53	3.45	3.47	3.55		
	16	ボランティア活動等の地域と連携した活動を通して自尊感情や自己有用感の高揚を図っている。	3.11	3.70	3.21	3.60		

進路指導	17	生徒の自己実現に向け、3年間を見通した組織的・体系的な進路指導(キャリア教育)を行っている。	3.16	3.40	3.21	3.25	<ul style="list-style-type: none"> ・例年より少し遅くはあるが概ね順調に進んでいるようだ。 ・コロナの終息。 ・進路便りは有効だと思いました。 ・見通しを持って指導できる人が少ない。 ・分掌と学年との連携を密に取り、進路指導のより良い形を作っていく。
	18	収集・分析した進路情報を進路ガイダンスや保護者説明会などを通して生徒や保護者に適切に提供している。	3.26	3.35	3.21	3.40	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導全体が場当たりに感じる。何とか対応はできているが更に計画的に組織で動く形作りが必要である。 ・情報分析と活用が出来ていません。講習や模試の見直しをする必要があります。 ・3者面談の在り方など再検討も必要なことがあるように思う。(変えるというより再検討) ・系統だった早期からの進路指導で羽幌オリジナルキャリア教育を確立できると指導がスムーズ。誰がやっても同じように指導できる体制作りが必要と感じる。